

「星とたんぽぽ」

金子みすゞ

青いお空の底ふかく、  
海の小石のそのように、  
夜がくるまで沈んでる、  
昼のお星は眼にみえぬ。  
見えぬけれどもあるんだよ、  
見えぬものでもあるんだよ。  
散ってすがれたたんぽぽの、  
瓦のすきに、だあまって、  
春のくるまでかくれてる、  
つよいその根は眼にみえぬ。  
見えぬけれどもあるんだよ、  
見えぬものでもあるんだよ。

「おなじく」 山村暮鳥

春の、田舎の

大きな河をみるよろこび

そのよろこびを

ゆつたりと雲のやうに

ほがらかに

飽かずながして

それをまたよろこんでみてゐる

「まぶしうはるが」 まぶしなちお

まのめが おまゐる  
まじぶぐ おまゐる  
みてゐる めめが  
まぶしう はるが  
まじうく くるかいらよ

ちよしちよを  
しわて

まのめ  
じな  
うすい うすい  
まじな じな

「めがさめた」

工藤 直子

どうしたの？ E

うす緑のようぶが ぶんぶん めわんめ

おおいEよ！ なに ぶんぶんころころ？

だってね くっくっく

雪どけみずが ちよろちよろしてね

りすは もいせいおんころ

かえるは いんいん のねずみ かわいん

みんな めがさめて あちこち うんちよん

くっくっく へすべったくてなあ

ひゃ もうたまらんー！

あーっはっはっはっは

山がわらって 春がきた

この気もちはなんだろう  
目に見えないエネルギーの流れが  
大地からあしのうらを伝わって  
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ  
声にならないさけびとなってこみあげ  
この気もちはなんだろう  
枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく  
よろこびだ しかしかなしみでもある  
いらだちだ しかもやすらぎがある  
あこがれだ そしていかりがかくれている  
心のダムにせきとめられ  
よどみ渦まきせめぎあい  
いまあふれようとする  
この気もちはなんだろう  
あの空の青に手をひたしたい  
まだ会ったことのないすべての人と  
会ってみたい話してみたい  
あしたとあさってが一度にくるように  
ぼくはもどかしい  
地平線のかなたへと歩きつづけたい  
そのくせこの草の上でじっとついていた  
大声でだれかを呼びたい  
そのくせひとりで黙っていたい  
この気もちはなんだろう

「新しい人」 小泉 周二

新しい人を見ると

どきどきしてしまふ

なんだかみんないい人みたいに見えてきて

にににこして話しかけてしまふ

新しい人を見ると

わくわくしてしまふ

なんだかみんな光って見えて

まぶしくて目をほそくしてしまふ

「かんがえるのって おもしろい」 谷川俊太郎

かんがえるのっておもしろい

どこかとおくへいくみたい

しらないけしきがみえてきて

そらのあおさがふかくなる

じのおかのうねいのきょうじは

みらいにむかってととでいる

なかよくするってぶしぎだね

けんかするのもいいみたい

しらないきもちがかくねって

まえよりもっとよすまじなぬ

じのおかのうねいのがっじは

みんなのちからでそだってへ